

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102113
法人名	有限会社 サン・ヴィレッチ
事業所名	グループホーム たんぼぼ2号館
所在地	宮崎市大塚町権現前920-1 (電話) 0985-48-3308
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 8 月 5 日

【情報提供票より】(21年 7月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月14日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82.4 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおつか生協クリニック・宮崎生協病院・若草病院・仁科歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市のやや郊外にあり、大型団地に隣接する閑静な住宅地で、利便性の良好な場所にホームは立地している。1階がデイサービスと有料老人ホームで2階がグループホームとなっており、連携して運営が行われている。運営者は人材育成に力を入れ、毎月テーマを決めて勉強会を行っており、職員は資格取得に積極的で有資格者が多く、レベルの高い職員体制となっている。また、改善課題に前向きに取り組み多くの課題が改善されている。高齢化が進み運営上かなり厳しい面もあるが、利用者は職員の暖かい心のこもったケアに支えられ表情も明るく元気に暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を勉強会で全員が理解し、介護計画の毎月の見直しや行政との連携強化等多くの課題に取り組み改善されている。
重点項目②	自己評価は職員会議で評価の意義や目的を勉強し、理解した上で全員で取り組みケアの向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や自治会が主催する防災訓練等の話し合いが行われ、事業運営に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、苦情処理簿を作成し、発生の要因や課題を検討し、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に加入しており、自治会が主催する防災訓練への参加や散歩時に近隣の人々との挨拶等地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、利用者の生活を支援する5つの項目の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっていない。	○	地域の中で利用者が安心して暮らし続けることができるよう、地域との関係性を重視した事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有しケアに活かす努力をしているが、地域密着型サービスの意義や役割が充分理解されていない。	○	地域密着型サービスの意義や役割について全員で話し合い、理念を共有し、日々のケアに実践できるよう取り組んでほしい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入しており、自治会が主催する防災訓練への参加や散歩時に近隣の人々との挨拶等地元の人々との交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で評価の意義や目的を勉強し、理解した上で全員で取り組みケアの向上に活かしている。また、外部評価は評価の結果を踏まえて、具体的な改善に取り組む改善の跡がみられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や自治会が主催する防災訓練等についての話し合いが行われ、事業運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の担当窓口に時々出向き、運営上の諸問題について相談や指導を受けている。また、市が主催する研修会や行事には積極的に参加して協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状態や暮らしぶりを詳しく報告し、遠方の家族には電話で報告している。また、ホーム便りも毎月発行し家族に近況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、苦情処理簿を作成し、発生の要因や課題を検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでは職員の離職が多かったが、運営者は異動や離職を最小限に抑える努力をしており、この1年はほとんど異動や離職がなく馴染みの関係が保たれ、利用者は安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れ、毎月テーマを決めて勉強会を行っている。職員は資格取得に積極的で有資格者が多くレベルが高い。看護師2名、介護支援専門員3名、介護福祉士4名、2級介護職2名と多くの資格を取得している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族にホームを見学してもらったり、職員が自宅や施設を繰り返し訪問する等、徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と自由に会話する時間をできるだけもうけ、昔話や思い出話を楽しくしながら信頼関係を築いている。また、利用者から料理や生活の知恵等多くのことを学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情、会話の中から思いや意向を把握できるように努めている。また、家族や関係者の情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族をまじえた担当者会議で利用者一人ひとりの課題やケアのあり方について検討し、本人や家族、関係者の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月利用者や家族の意向や状況を確認のうえ評価し、介護計画は3か月に1回定期的に見直しを行っている。状況の変化がある場合は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて、通院や外出、墓参り等、柔軟に支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本に継続的な医療が受けられるように支援している。協力病院の内科系から月に2回、精神科系から月に1回の往診があり、気軽に相談や受診が受けられる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に看取りに関する指針を、本人・家族に説明し同意を得ている。また、関係者全員方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関するマニュアルを作成し、勉強会を行っている。利用者に対する職員の言葉かけが丁寧で、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるが、利用者の意向やその日の体調にあわせ、自由に自分のペースで暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化が進み介助の必要な利用者が多くなり、食事は職員一人だけ検食者として同じテーブルで同じものを食べている。他の職員は介助後、別室で持参の弁当を食べている。	○	高齢化が進みかなり厳しい面があるが、何とか職員が一人でも多く利用者と一緒に楽しく食事が出来ないか検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本に入浴を行っているが、希望があれば、毎日の入浴も支援できる。利用者が気持ちよく楽しめるように、必要に応じて2人で介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが有する力の範囲で、洗濯物たたみや後片付け、ぬり絵、体操、散歩、たまにはドライブ等、楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用者が多くなり、遠方への散歩は厳しくなったが、出来るだけ希望に沿って近隣を毎日散歩できるよう支援している。また、近くのスーパーに買い物に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあるが、安全確保の徹底や見守りを重視した取り組みで、日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。また、年1回、自治会が行う防災訓練に利用者と職員と一緒に参加して、地域の人々の協力関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理している。また、栄養士が作成した献立表による、旬の食材をとり入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、適度な広さで食堂にはテーブルやソファが置かれ、壁には利用者の作ったはり絵や花見の写真等が飾られ家庭的な雰囲気がある。日当たりも良く換気が行われ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれきれいに整理され清潔感があり、鏡台や家族との思い出の写真等が持ち込まれているが、全体的に馴染みの物の持ち込みが少ない。		利用者が安心して居心地よく生活できるように、家族と相談しながら、使い慣れた好みの物を持ち込めるよう検討してほしい。